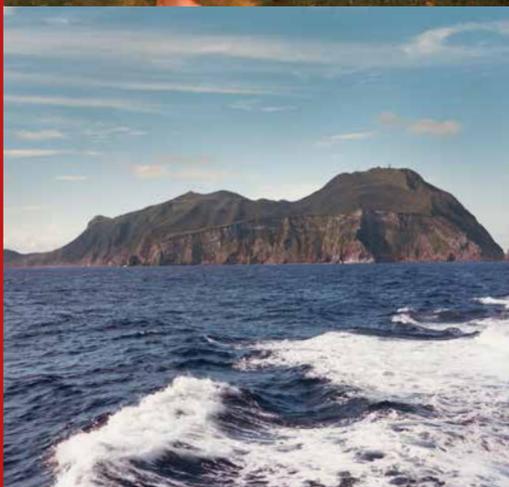
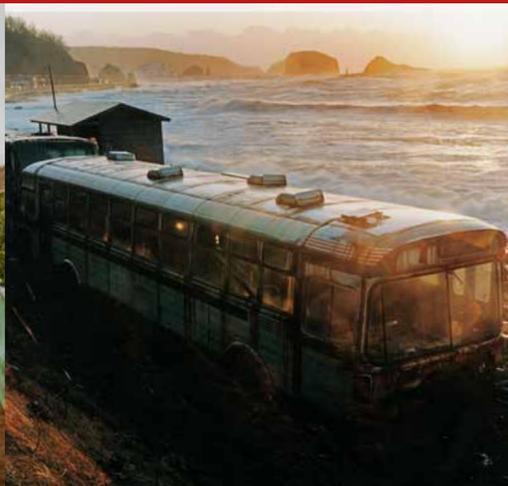




Museu  
Oscar  
Niemeyer

JAPAN HOUSE

SÃO PAULO

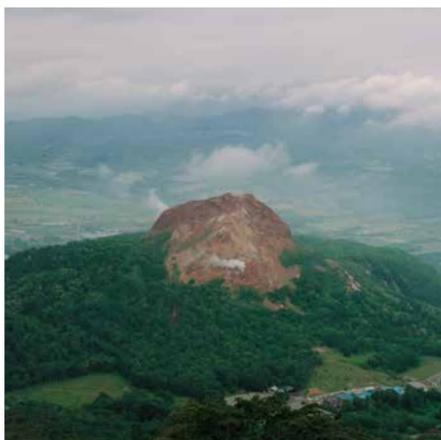


**JAPONÉSIA**  
**NAOKI ISHIKAWA**

「ヤポネシア」展は、オスカーニーマイヤー美術館(MON)とジャパン・ハウス サンパウロの有望なパートナーシップの始点にあたる展示です。

日本の写真界の最も重要な存在の一人として認められる石川直樹氏が撮った、心を掻き立てるこの作品群は、我々が知らない日本へのユニークな探検を提供してくれます。石川氏の類い稀ない作品の大きな特徴は、アナログで撮られていることでしょう。その結果、現像された画像の色彩が更に映えます。このような手法を通じて、写真家は自然と、人の営みや文化の軌跡の相互関係を紹介してくれます。

この展示会は、日本屈指の写真家とその繊細な眼差しで捕らえた、その国を見つめる唯一無二のチャンスです。世界的に認められ、国際受賞歴を持つ石川氏は、本展では日本列島の20以上の島々の画像に焦点を当て、日本と海の強い絆を更に引き立てています。



展示会の名前「ヤポネシア」も、日本

が島々の集合体であることを強調しています。

MONは、この度ジャパン・ハウス サンパウロと協力合意書を結んだ最初の機関になることが出来ました。この展示会を通じて、特に全国第二位の規模を持つ、何万人のも日本人の子孫からなるパラナ州の日系社会に対してオマージュを捧げます。

オスカーニーマイヤー美術館館長  
ジュリアナ・ヴェローゾ・アルメイダ・ヴォスニカ



## 一人称視点

石川直樹氏の「ヤポネシア」展は、旅するアーティストの一人称視点で「日本」を見つめる機会です。その内容はまるで旅の日記や回想録の一部を写真という形でめくっていくかのようにもあります。

本展は、初めて見る風景との出会いもあり、親しみのある場所を再確認することもできます。また例えば日本の象徴として広く知られ、被写体としては飽和状態に近い富士山のような場所でも、その意外性に驚ききっかけでもあると言えます。この伝説の霊峰の描写を数多く鑑賞された方も、実際に訪れたことがある方も、石川氏のインスタレーションに収められた場面、瞬間や景色の角度を目にすることで、時間がもたらす変化の豊かさや力強さを感じることができます。そこには、人それぞれの心の時間、それぞれの体験ごとの生きた刹那、さらには観覧者自身のその時の心持ちさえあります。



オスカーニーマイヤー美術館でビジュアル散策をして頂くことにより、日本という国は、地理的な要素による景色の変化に加えて、四季を通じて壮大な美的変容を繰り広げていく、大胆に移り変わる風景を持つ国であることを知って頂くことができるでしょう。

石川氏はまた、自身の冒険や探検での好奇心溢れる視点を私たちと共有してくれます。デジタルへの依存が頂点に達している今、彼はあえてアナログ手法で撮影し、現像を手作業で行っています。石川氏は写真を撮るという行為そのもの、そして写真用紙という実体のある媒体を使うことによって、被写体との親密な関係を築いているのです。

「人間は、だれも孤島ではない」(ジョン・ダン、1624年)という有名な格言が、「ヤポネシア」のコンセプトに見事に象徴されていると思います。世界の誰もが隔離を余儀なくされている今、日本という国は群島であることを思い起こさせた上で、歴史や伝統のパッチワークのようでもあり、それを繋ぎ合わせているのは海であるという考えは、極めて詩的です。

距離と隔離の必要があった2020年は、同時に人の絆や関係が不可欠であることを改めて伝えてくれた「証明」の時期でもあると言えます。

「ヤポネシア」展は、2020年10月、ジャパン・ハウス サンパウロの再開と同じ日に公開されました。当館にとっての最大の存在意義であり、最も貴重な資産であるお客様から数カ月ものあいだ離れざるを得なかった長い期間の終わりを告げた記念すべき展示でした。

この度、ジャパン・ハウス サンパウロ初の国内巡回展示をクリチバ市の皆さまにご覧になって頂けること、そして会場をオスカーニーマイヤー美術館という重みがある、厳粛な施設にさせて頂けたことは極めて意義深いことです。この事業は、多大な努力と熱意で準備を進めた両機関のスタッフの傾注と努力があって初めて可能になったものであることをここに記します。

ヤポネシアは出会いの美しさを表現し、私たちの中に新たな視点や発見への欲求を呼び覚ましてくれます。

ジャパン・ハウス サンパウロ企画  
局長・本展示キュレーター  
ナターシャ・バルザーギ・ジーネン





## 石川直樹 (いしかわ なおき)

1977年東京生まれ。写真家。早稲田大学第二文学部卒、東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。

石川氏は特に自然と人間の営みを捉えた日本の風景の記録を積極的に行っている。旅するアーティストとも表される石川氏はその土地に赴く前に徹底的にその場所をリサーチし、その土地を歩き、撮影に臨む。そして、その場所で浮き彫りになった自然、その土地の伝統や現在の様子をアナログ写真を用いて永遠に残すのだ。人類学、伝統儀式や伝承に強い関心を持っており、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。

フランス、イタリア、ドイツやカナダなどで展示会を行い、2008年に日本写真協会賞新人賞、2020年には日本写真協会賞

の最高賞とも言われる作家賞を受賞している。また、アジア圏やアメリカの展覧会でも大成功を収めており、東京都現代美術館（東京、日本）、上海視覚芸術学院（上海、中国）、クリーブランドクリニック（オハイオ、アメリカ）に収蔵されている作品がある。

石川氏は作家としても広く知られており、20チベットやネパールに暮らすシェルパ族の子供がエベレスト登山を目指す物語を描いた、「シェルパのポルパ エベレストにのぼる」（2020年）などが出版されている。



**Japonésia**  
**Naoki Ishikawa**

**7号室**  
**2021年4月11日まで**

---

主催



**JAPAN HOUSE**

SÃO PAULO



Museu Oscar Niemeyer





Museu  
Oscar  
Niemeyer

フォローする



JAPAN HOUSE

SÃO PAULO

フォローする



オスカー ニーマイヤー美術館

火曜日～日曜日、10時～18時

入場券販売 17時半まで

入場券販売(オンライン): [museuoscarniemeyer.org.br](https://museuoscarniemeyer.org.br)

60歳以上の方、また12歳未満の方は入場無料

---

パラナ州クリチバ市 ルア マレシャル エルメス 999番地

セントロ シヴィコ

電話番号 41 3350 4400